

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	低
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： 言葉の発音が不明瞭。言いたいことがあるが、言葉が伝わりにくい。
	• 自立活動の目標	発音の仕方を知り、正しく発音することができる。言葉を増やす。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • □の形を模倣できるようにし、一音ずつ発音を一緒に行う。 • 正しく発音できたときには大きく褒め、自信につなげる。 • 本児から伝えたいことがあったときは、代弁しながら伝えたいことを噛み砕いていき、伝わったという経験を積めるようにする。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> • 担任の名前や学年教員（数名）の名前を覚え、はっきり発音をすることができるようになった。クラスメイトの名前も覚えており、友だちの名前を呼ぶ場面も増えてきた。 • 言いたいことが伝わる喜びを感じている様子で、もっと話したい意欲が出ている。 • 「プレイルーム」や「おはようございます」、「いただきます」等、少し長い言葉や流れやすい音が難しい場面があるため、今後も継続して取り組んでいく。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> • 一文字ずつゆっくり発音をする場面を設けることで、言葉の音や□の形に意識を向けることができ、正しいはっきりした発音ができることが多かった。

グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> クラス等でゆっくりと発音の練習に取り組む時間とそうでないときのバランスが大事。 本児の誰とでもフレンドリーに関われる力が強みとなっている。会話のキャッチボールが楽しいと感じることが何よりも成長するポイント。 時には意識しすぎず、何気なく行うような時間も大事かも。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の児童や教員の名前を覚え、呼ぶことができるようになってきている。教科名や授業でよく使用する場所、下校方法（バスやデイサービスの名前）、要求なども言葉で伝えられるようになってきた。西フェス練習期間には、自主的に練習風景を絵に描き表し、「みて～」と教員に描いたものを伝える等、言葉を通して本児の人への関心や関わり、会話等が広がってきている。
	<ul style="list-style-type: none"> 教員自身の成果や課題 効果的だった支援の実践方法 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉で伝えることが楽しいと感じられるようにするために、まずは本児が伝えようとしたことを受け入れるように心掛けられたことが良かった。適切な発音ができるようにするために一音ずつ発声する場面を絞って取り組むことを意識した。
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> 伝わる経験が増え、話すことに関して自信がついてきたため、遊びの中で口を動かす練習を取り入れていく。 友だちと遊んでいる場面で使いたいものがあるときに「貸して」と言葉で伝える等、友だちとの言葉でのやりとりを増やしていく。

		置いておく。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	・生活の中において本児に必要性を感じさせる状況をつくと共に、本児へのヒントを教室の目につくところに置いておく。 ⇒ホワイトボードに記入していた必要な言葉を、模造紙などにして、消えることなく常に見ることができるようにする。
2学期の振り返り	・児童生徒の様子、変化	・学年やクラスにも慣れ柔らかさがでてきたため、担任以外の先生に対しても自ら関わろうとする姿が見られるようになってきた。その結果、自立活動での発音の指導や授業の中でも声がしっかり出るようになってきた。
	・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	ホワイトボードに記入していた必要な言葉を、模造紙などにして、消えることなく常に見ることができるようにする。 →2学期から壁に必要な言葉を書いて貼るようにした。本人が指さしで文字をさし、見ながら指文字で相手に伝えるようになった。繰り返している間に覚えて使える言葉も出てきた。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	・音声言語・身振り・指文字を使って、身近な人に伝える。(担任の一部の教員にはできつつある) 今後自分の思いを伝えることのできる大人をふやしていく

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<p>着替えの途中にカーテンから出て、絵カードで行先を示すことがあるが、教員に「やること終わってから」と伝えられると、すぐにやることを終えて「〇〇先生トントン」で外に出ていく姿が多く見られた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<p>「100、200、3好きなこと」と順番で示すことで見通しをもって活動に取り組むことができた。</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<p>音声言語、絵カードを用いて自分の行きたい場所を伝えてから行動することができる。</p>

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> 予定を伝え、見通しを持てることで安心して移動できるようになっている。教員や児童誰とでも手をつなぐことができるようになることが大切である。決められた席に座ることが苦手だが、ある程度、自分が決めた席に座って活動に参加できるようにすることも大事なと考えた。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> 決められた場所に座ることは難しいが、少しずつやりたいことをするためには座って待たないといけないことを理解して座ろうとすることができるようになってきている。
	<ul style="list-style-type: none"> 教員自身の成果や課題 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> 中庭遊びでは、ブランコの順番を待つことが難しかったが、ベンチに座って10まで数えることや名前が呼ばれたらブランコに乗れることを伝え、その順序で待つことができるようになった。
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動での所属、決められた場所で活動できるように少しずつ、座ることができる時間を増やしていく。やりたいという意欲は強いので、順番やルールを守って活動に参加することができる経験を徐々に積んでいく。 これぐらいだったら頑張れるだろうというところから徐々にスモールステップで課題を乗り越えていく。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイルーム活動前の関わり方の確認時は、落ち着いて話を聞き、練習もできていた。 ・適切な関わり方を繰り返していくサイクルを継続することで、良い習慣、影響があると感じられる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のグループ討議で出たアドバイスどおりに実践するとうまくいった。 ・プレイルームに入ったら、事前に関わり方の確認と練習を行った。 ・良かった関わりはその場でできる限りほめる、認める。
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<p>課題：友だちとの関わり</p> <p>目標：友だちとの関わりについて、適切なやりとりの経験を積む。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	低
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	• 自分の気持ちを言葉で伝えることが難しい。
	• 自立活動の目標	• 自分の気持ちや経験したことを言葉で伝えることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	• 悲しみや怒り、喜びなど、感情が表出したときに教員が「悲しいね」や「嫌だったね」、「楽しいね」のように感情を表す言葉を伝え、言葉を覚えられるようにする。 • 1日の終わりに、授業名の書かれたカードと感情を表すカードを提示し、どのような気持ちだったか教員と一緒に振り返る時間を設ける。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 教員が本児の様子を見て「嬉しいね」や「悲しいね」などの言葉かけをしたときに「うん」と言って頷く様子が見られた。 • 振り返りの時間にカードを見ながら授業を振り返り、「嬉しかった」などの感情を表す言葉が本児の口から出るようになってきている。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 感情を表す振り返りカードがあることで、言葉を聞くだけではなく視覚的にもわかりやすくなっていると思う。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	• 本児の感情が表出したとき、言葉かけに加えて、感情を表す絵カードを添えるようにする。「嬉しい」「悲しい」と感情をその場で覚えられよう繰り返し伝える。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が聞かなくても本児の口から自然と「たのしかった」や「くやしいねん」などの言葉が出るようになってきた。 ・教員が「どうして楽しかったの」などを尋ねると理由をつけて話せるようになってきた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを言葉で伝えられたときに、しっかり褒めることで「次からも伝えてみよう」とモチベーションにつながったと考える。 ・絵カードを添えるようにしたかったのだが、なかなか活用することができなかった。意識的に使っていきたい。
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを教員が言語化することで、伝え方を知ってもらおう。 ・感情を表す語彙の種類を増やす。

実態把握と目標設定	• 学部	小		
	• 学年	低		
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、■ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）		
	• 対象児童生徒の課題	• うまくいかないことや自信がないこと、気持ちを言葉で表現できないことがあると、大声を出す、叩く、蹴る、物を投げる。		
	• 自立活動の目標	• 自分の気持ちを言葉で表現できるようになる。		
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 環境の把握	心理的な安定 身体の動き	人間関係の形成 コミュニケーション
	• 支援の手立て	• 日常生活において、教員と一緒に気持ちを言葉で表現する経験を積む。言葉で表現できたらすぐに応じたり、表現できたことをたくさん褒めたりして、達成感を得られるようにする。		
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 何か気持ちの引っぱりがあると大声を出すことが続いているが、時折「～がよかった」と言うことができるようになった。		
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 見通しがたつような視覚支援、分かりやすい言葉かけが効果的だった。また、頓服薬の効果的な服用のタイミングが分かってきた。 • 大声を出す、叩く、蹴る、投げるといった課題となる行動は続いているので今後も継続して取り組む。		
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	• 給食の時間に荒れることが多いので、気持ちの引っぱりが多いポイントで安心できる言葉かけを継続する。落ち着いて食べることができた場合に献立に○をつけるなどして、成功体験を積み重ね、自信がもてるようにする。		

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食準備の時間から荒れるようになった。一度荒れると継続して荒れるので、ほとんど給食を食べられないこともあった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を食べることを第一目標とし、準備が始まる前に休憩し、落ち着いてからiPadで一品ずつ給食メニューの確認を行うようにした。心づもりができてから食べるようにしたことで完食できるようになった。投げる前に早めに対応することで落ち着いて食べることができた。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・しんどい時に、教員と一緒に「休憩します」と言えることができるようになる。 ・思いがけないことで気持ちが乱れた場合、パニックになるので配慮が必要。

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	低
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	「ください」という要求はマカトンで伝えられる。 他のマカトンはまだ定着が難しい。 指さしができるようになってきている。
	• 自立活動の目標	「トイレ」を教員にマカトンで伝えることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	トイレに行く前に一緒にトイレサインをするよう促す。 1人で行こうとする場合は止め、「どこ行くの」と聞き、 トイレサインが出るまで待つ。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	「どこ行くの」と聞くと自分の肩を叩いてトイレと伝えられるようになってきた。 聞かないとそのまま行ってしまう。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	トイレサインが出るまで待った。 繰り返し行うことで定着につながると感じた。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	教員に「トイレ」を伝えられるように伝えたい教員の前に一緒に行く。どこ行きたいか言ってねと促しトイレサインが出るまで待つ。できたら、気持ちを受け止めトイレに行けるようにする。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<p>引き続きどこかへ行く際に「どこ行くの」と問い、トイレサインが出るまで待った。待っていると自分からトイレのサインができた。人に伝えるのは難しいが自らサインをしているときもある。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<p>何度も繰り返して取り組むことが大切だと分かった。サインをするだけではなく、誰かに伝える練習も必要だと学んだ。</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組んで、サインとトイレがつながるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な言葉の意味の伝え方や、作文の指導が難しい。 ・経験したことをその場で言語化。「疲れたね」「びっくりしたね」と伝えることが、気持ちの整理・安定にもなった。 ・感想を表す言葉をリスト化した。「楽しかった」など特定の言葉だけにならないように、選択肢リストを替えたり、『楽しかった以外』を選ぶように工夫したりした。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の感情と言葉の結びつきの前段階として、プリント教材で絵と動詞（泣いてる等）、絵と気持ちの結び付けなどを学習するのもいいのでは。 ・こんこんと続けることが必要。 ・SSTの視点：フィードバックと修正
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日取り組むことで作文や感想の発表に自信がつき、「(授業、活動)で〇〇をしたのが(感想)だった」などの文を一人で考えられるようになった。教員が例示した文を覚えて、別の日に自分で同じ表現を使えるようになっていく。 ・プリントでも、気持ちを表現する語彙と表情や状況との結び付けを学習しているが、理解や定着にはまだ時間がかかる。引き続き、実際にいろいろな気持ちを経験しながら、理解を深めることが必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・二学期は絵日記の課題を見直して、細かな文法よりも、自分なりの思いを表現することを優先した。指摘が減ったことで自信がつき、一人で3文程度書けるようになった。 ・自分の気持ちを言葉や文で伝える力や自信はついたが、プリントでも実体験でも語彙を増やすことは難しかった。 ・感想の文を考える際、教員が動作や表情、「やったー」などのセリフを交えながら本児の作文の内容を演じることで、言葉とイメージが結びつきやすくなった。演技を見て、自分のイメージに合う言葉を選ぶことができた。 ・気持ちを表す言葉のリストにイラストを添えたり、「かっこいい」→「〇〇がかっこよかったです。」のように文章の形に書き換えたりすることで、本児が少ない支援でリストを有効活用することができた。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことを教員と一緒に振り返りながら、引き続き気持ちの理解や表現を促していく。 ・表現することや伝えることに自信や意欲が持てるよう、課題を精選しながら取り組む。

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 ■その他（精神発達遅滞）
	• 対象児童生徒の課題	課題： • 年度当初から朝の学習や絵日記に取り組んでいる。 • 自分では正しく書いたつもりになっていることが多く、見直しの際も思い込みで読んでしまうことがある。
	• 自立活動の目標	• 正しく文字を書いたり、読んだりすることができる。 • 一日の出来事を振り返り、簡単な文を作ることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
• 支援の手立て	• 朝の学習や絵日記で文字を書いたり読んだりする場面を設定する。 • 周りに気持ちが逸れないように、カーテンなどで区切るなどして環境を調整する。 • 一日の出来事を振り返り、文を書くように促す。悩んでいる時には、「どんなことをしたのか」「何が楽しかったか」などを尋ね、本児自身の言葉を引き出せるようにする。 • 見直しの際には一文字ずつ正しく読むように促す。その際に、教員が指で押さえてどこを読んでいるか分かるようにする。 • 間違っている時には、どこが違うかを伝え、自分で誤字を修正できるようにする。	
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 一度出来上がった文章を自分で読んでみるように伝えると、書いているつもりになっているため、読み間違いが多い。教員が一文字ずつ指で押さえると間違いに気付くことが増えてきた。 • 「～をしました」の定型文で書くことが多いが、実際に取り組んでみてどうだったか尋ねられると「～が楽しかった」「～が難しかった」などの言葉を伝えることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何が楽しかったかなど活動内容を詳しく書くことができるようになってきた。 ・ 作文指導が難しい。 ・ 表現方法のパターン化。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワーキングメモリー 表現方法の獲得 簡単な絵本の音読などを入れてみる。 友だちの前で読んでみる。 ・ SST 正のフィードバック（褒める）：行動の強化 反復練習（繰り返す）：行動形成
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日取り組むことにより、どんなことが楽しかったか、どんなことをしたのか具体的に書くことができるようになってきた。また1学期は表現のパターン化が課題ではあったが、自分で考えて様々な表現で文章を書くことができるようになった。 ・ 「っ」「ー」などが抜けることが多かったが、一緒に確認をすることにより、不足している文字に自分で気付けるようになってきた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読む課題を毎日取り入れることにより、読み間違いが減りスムーズに読むことができるようになってきた。 ・ 授業のあとに、今日はどんなことをしたか児童に尋ねることにより、自分自身でも活動を振り返り思い出すことができるようになってきた。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員や友だちとのかかわりの中で、様々な表現方法を知る。